

最後に桜の花をのせてさくら餅の完成

親子料理教室
(2月27日:開発センター調理室)

特集／二大震災から得る教訓 危機感と地域コミュニティが命を守る
町政スポット／4月から変わる国民年金制度 朝日町りんご生産者大会
朝日町生涯学習推進大会 ほか
カメラさんぽ／全日本スノーボード選手権東北大会
まちの語彙／町内各地で冬季クリエーション大会 ジュニアスキー大会
ワインの夕べ 町体育協会表彰 ほか

広報 あさひまち 2005年3月号
No. 580

防災意識の高揚と自主防災組織の必要性



新潟県中越地震で被災した住宅（山古志村/10月24日上越地域消防事務組合消防本部撮影）

あなたは有事の事態が想定できますか？

自然災害の発生が少ない故の落とし穴

昨年は近年になく自然災害の多い一年で、台風や集中豪雨、地震などの自然災害が日本列島を次々と襲いました。その都度、家屋の倒壊などで尊い命が失われ、現地の悲惨な映像が各メディアをとおして連日のように放映されました。たいへんな惨事で、改めて被害の大きさを脳裏に焼き付けた人がほとんどかと思います。

昨年の十月二十三日に発生した新潟中越地震。電気・ガス・水道などのライフラインや道路等の復旧作業が進む被災地では、発生から五ヶ月が経過する今もなお、避難所や仮設住宅などで不便な生活を送っている人々が多く存在しています。

しかし、これらの事態を「他人事としてではなく、我が身に降りかかった惨事であつたら…」と考えることができた人は、実際にどれ程いたでしょうか。また、その教訓を生かして、有事の際の備えができる人、日頃から危機意識を持つことの必要性を感じた人がどれ程いたでしょうか。

いつ私たちに降りかかってきてもおかしくない自然災害。忘れた頃に不意に襲ってくるのが自然災害です。万が一、災害に遭遇した時、自分はいったいどういった行動を取ればいいのか。地域社会はどうあるべきか…。

記憶に新しい阪神・淡路大震災からちょうど10年目を迎える今年、「震災10年神戸からの発信」推進委員会が中心となり、神戸市民のみなさんが全国各地を訪問。震災の記憶を風化させてはいけないと、訪問先の人たちと交流を深めています。その内容は、震災の経験やそれで得た教訓、復興への取り組み、地域におけるまちづくりの取り組みなどを直接伝えていくとともに、訪問先の地域の取り組みなどについても学んでいくというもの。県内では唯一、ここ朝日町に訪問していただきました。交流テーマは「平常時における災害ネットワーク（ボランティアネットワーク）づくり」。

今回の特集では、2月23日に開催された「震災から10年神戸からの発信～してきたコト。これからするコト…～」の開催を受けて、町民の防災意識の高揚と有事に備えた自主防災組織の必要性について考えます。

いでしょうか。

災害のない町は住みよい町であるという反面、災害に対する危機感を得る機会がない町であ

あなたはその時、どんな行動をとりますか？

予想される直下型の大地震

さて、突然襲ってくる自然災害のために、日頃から気を付けていること、あるいは緊急避難用に準備している物があるでしょうか。災害発生と同時にどんな行動を取ればいいか。緊急時の避難場所はどこか。復旧作業など被災地での自分の取るべき役割は何なのか。そういうふたことを、例えば家族同士で話し合つたことがあるでしょうか。互いに離れた場所にいる場合でも、有事の際どこに集合するかぐらいいは、事前に話し合う機会を持つことが重要です。

確かに朝日町において、これまで地震における大きな被害の記録はありません。しかし、直下型の大規模な地震が起こりうる可能性が十分に考えられるのです。

地震発生のメカニズムは「活断層」と密接な関係のあることが調査の結果明らかになっています。以前にも広報紙（二〇〇二年一月号）で紹介していま

るという見方もあります。有事の想定ができない状態が慢性化している現状を、改めて認識する必要があります。

ですが、阪神・淡路大震災の発生を受けて、国の地震調査委員会は全国の主要な活断層について調査を実施しており、その詳細を公表しています。

県内の主要な活断層のうち、大石田町から上山市にかけて約六〇キロメートルにわたり走っている「山形盆地西縁断層帯」。今後三十年以内（公表当時の数字）にマグニチュード（M）七・八程度の地震が最大で七%の確立で発生すると予測しています。これは、阪神・淡路大震災の規模（M七・二）を上回る地震で、全国の断層帯の中でも発生確率の高い断層帯として、上位にランクされています。

また、同委員会が今年の二月九日に公表した「長井盆地西縁断層帯」。朝日町から米沢市にかけて約五一キロメートルにわたり走っている断層帯ですが、今後三十年以内にM七・七程度の地震が〇・〇二%以下の確立で発生すると予測しています。

発生確率は、山形盆地西縁断層帯の七%より低い値ではあります、これらの数値を高いと捉えるか低いと捉えるかは、住民一人ひとりのこれから防災意識に委ねられることになります。

単に、危機感を抱くために、公表しているものでは決してありません。ただ、発生する確率は多かれ少なかれ確実にあるということであり、発生すれば阪神・淡路大震災以上のエネルギーを持つ地震が、私たちを直撃するという認識に立つ必要があるということです。

朝日町には大きな断層帯が二本存在しており、町の防災担当課（税務町民課）では、大規模な災害に備えた自主防災組織の更なる強化も含めて、住民の地震災害に対する認識を高めていく必要性を示唆しています。



新潟の被災地のボランティア活動で得た教訓

宮宿衛生社（有）

浅岡 清二郎 さん（西町）

県からの要請で、被災地（長岡市内）を訪れる機会を得ることができました。要請された仕事の内容は、地震による液状化現象でマンホールが浮いてしまう状態、あるいは、マンホール周辺の地面が隆起したり陥没したりして起きた下水管の破損により、マンホールから汚水が溢れ出る恐れのある箇所での汚水の汲み取り作業が主な任務です。

現地にバキュームカーを持込み、一週間ほど作業を行ってきましたが、全国から多い時で約300台の車が現地入りしていたようです。長岡市内の下水道普及率は97~98%と高く、現地で働くバキュームカーが全く不足している状態でした。

見る目を疑う光景。こんな事態が瞬時に起きたならひとたまりもないはず。いつ何が起きても大丈夫なように、日頃からの心の準備が大切だと思いました。

瞬時に起くる自然災害に対応自主防災組織の見直しに本腰

朝日町消防団長

柴田 七郎兵衛 さん（大町）

町の防災の要である消防団の幹部として、一度は現地の状況を把握しておく必要があると思い12月13日、川口町や小千谷市を視察してきました。現状は、予想以上に悲惨なもので、ほとんどの家が倒壊したり傾いていたし、山という山が崩れていました。山際を走る高速道路にもヒビが入っていたし、当時の揺れの凄まじさを思わせる光景が、今でもこの目に焼き付いています。

消防団という立場上感じたことは、瞬時にあのような状態に陥れば、朝日町消防団員380人だけでは到底対応ができないということです。幸いにも、今まで町で大きな地震による災害はありませんでしたが、将来起りうる事態を一人ひとりが認識しておく必要があります。火災時の対応のみになりがちな予備消防隊を中心に、自主防災組織の見直しについても、これから真剣に取り組んでいくことが求められています。

ています。

ここで皆元さんの体験談を紹介します。

当時の映像を見ると、十年が経過した今も体の震えが止まりません。地震発生の一月十七日午前五時四十六分。まだ辺りは真っ暗な状態。何も見えない中の出来事で、いつたい何が起

こったんだろうと思いました。

「もうそろそろ起きなくちゃ」

という時間帯でもあり、ストーブに火が入っている家庭も少なかつたのではないかと思います。

また、家族が通勤通学などバラバラになつていなかつたため、地震発生直後に家族の所在がつかめないといつても少なかつたと思います。ある意味、この時間帯だつたことで幸いしたと言えるかもしれません。

もしこの地震が日中に発生していたら、より大きな火災が発生していたかも知れないし、家族との連絡が取れないまま途方

に暮れていたかも知れません。震度7といつる揺れはどれだけのものか。みなさんは想像が付くでしょうか。私の娘は「ずっとジエットコースターに乗つていたような感じだつた」と話しています。その揺れが二十秒間続いたんです。ビックリして飛び起きたというより自然に体が起きあがつたという感じです。テレビは隣の部屋に転がり冷蔵庫も倒れ、それはもうひどい状況でした。あの状況下で家族のだれもケガをしないで済んだのは、奇跡としか言いようがありません。

私たちはどうあえず、近くの小学校に避難しました。その頃には空も明るくなり始めていたと思います。「すゞくスッキリしているな?」。その時初めて周囲の状況を把握することができました。今までそこにつきました。今まではほとんどの家が倒壊、跡形もなくなつていきました。その現場で身内あるいは近所の人を救い出そうとしている人の姿も見えました。私と主人は即座にその手助けに走りました。

周囲には「どこかにバールはないか! スコップはないか!」という怒声とも言える声が、飛び交っていたのを記憶しています。そういうう正在するうちに、今度は道路をはさんだ反対側で火

神戸市灘区在住
皆元初香さん



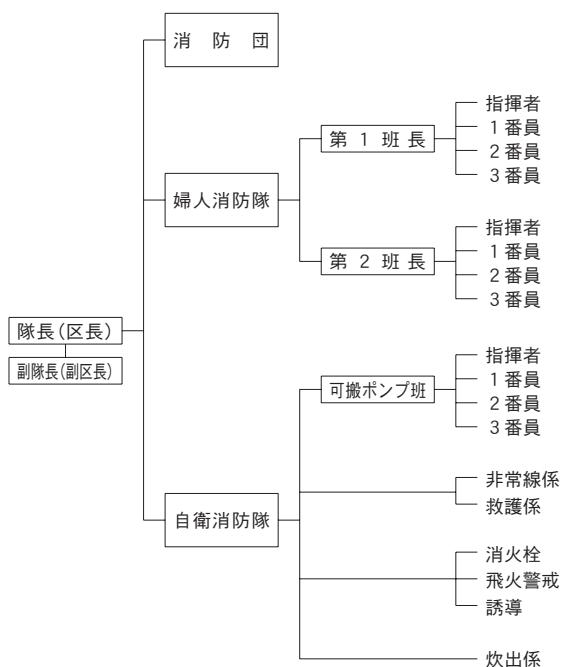
町内で最も早く自主防災組織が誕生

大沼区長 小林 昇さん

町の中心部から大沼区までの区間は、幅が狭く急勾配な道路が続き、車でおよそ20分を必要とします。故に、救急を含めた万が一の災害時には、消防機関等が到着するまでの「初期活動」の重要性を区民一人ひとりが認識しています。また、区内の高齢化率も37%と町内でも高い地域であるため、これらの地理的・人口構成等の条件から、現在でいう自主防災「大沼区災害救助隊（小林昇隊長=同区長）」の組織化が最も早く誕生（昭和45年4月1日発足）した地区です。

春の水利点検から始まり、消火栓・軽小型動力ポンプ使用点検訓練、月2回の家庭訪問による防火査察の実施。さらには地区民を含めた秋の防災訓練を防災隊単独で行っています。その他、避難誘導訓練、炊き出し訓練、消火栓・小型動力ポンプを利用しての初期消火訓練、消防団との情報伝達訓練、心肺蘇生講習会等を随時実施。年間を通して防災隊の技術と防災意識の高揚を図っています。区の予算にも活動経費を計上しています。

大沼区災害救助隊編成表



じしに引いてはるかに（五面・
共助）じごの城持わが自然に構
生えてくるところいじだす。血
然と手をやさのぐれいじがじゆ

特集①二大震災から得る教訓 危機感と地域コミュニティが命を守る

防災意識の高揚と自主防災組織の必要性



高齢者世帯の排雪作業に集まった区民や
消防団員 地域を思うならではの光景
(大谷五区)

埋めになつた人は、約三万人くらいたということですが、内衛隊などの救助隊による救出者は五百人くらいと聞いています。残りの人たちは地域の方々が救助したということになります。「地元の人たちが結束する」その力は無限大のような感じもえしました。有事に備えた自主防災組織の必要性を改めて感じてゐるといふのです。

避難所の運営などに関しては、今だから言えるボランティアの方々がすぐに駆け付けて貰ったんですね。受け入れ体制などもすぐに整つた環境にあります。が、一九九七年

**中山間地域に共通する
「村の孤立化」**

合間に点在する集落は 地震による土砂崩れや道路の崩壊などで行き来が寸断され、孤立する可能性があることを認識しておかなければなりません。

よくな中山間地帯にある朝日町にとつて、この経験は次の有事に備え活かしていかなければならぬことです。現時点では、有事の際孤立すると考えられる集落は、朝日町で十数カ所に及ぶだろうと考えられています。今後、関係機関や団体とも再度検討し詰めていかなければならぬことがあります。町の中央部を最上川が南北に流れ、その西側、東側とともに高い山を控えている朝日町ですから、その

新潟中越地震で得た教訓と
存在したということです。同じく
予期せぬ事態：

私もまた、その時間帯は布団の中でした。突然、ソノといつ、ベットから体が宙に浮くほど大きく突き上げるような縦揺れがありました。その瞬間は、それが地震であることは分かりませんでしたが、その次の横揺れで地震であることが理解できました。「何が起きたんだろ？？」。揺れが治まるまで自分がとった行動を、正直書つて覚えていました。

阪神・淡路大震災の被災者の一人で、同じく今回来町した三宅成典さんは、「M7クラスの地震が突然襲つてくると、いつたい何が起こつたのかとつさには判断できなくなる」と話し、震災時の迅速で正確な情報の伝達と震災後の地域コミュニティの重要性について訴えています。ここで、三宅さんの体験談を紹介します。

TAの方々などみんなが自然発生的に集まり役割などを決め、それぞれ二千人くらいの集団をまとめていたと思います。

生の危険箇所として六十一箇所を想定しています。これらは全て集落内や集落前後の道路を寸断してしまう要因と考えられます。これらの箇所を地図上に落

中山間地域に共通する予期せぬ事態・

「村の孤立化」

が「ボランティア元年」と呼んでいた。それでいるようだ。あの当時は余りてが初めてのことにした。しかし、自治会の役員さんたちやお

TAの方々などみんなが自然発生的に集まり役割などを決め、それぞれ二千人くらいの集団をまとめていたと思います。

生の危険箇所として六十一箇所を想定しています。これらは全て集落内や集落前後の道路を寸断してしまう要因と考えられま

朝日町の災害年表(表1)

月 日	種類	概要
明治2	7月13日	台風 最上川大洪水
明治8	7月18日	山崩れ 大暮山村後口で山崩れ発生 家屋倒壊15戸 位置変わり破損23戸
明治8	9月10日	豪雨 7月上旬から雨が降り続き8月に大雨 所々の道や橋が流される
明治17	8月	豪雨 最上川大洪水
明治22	5月1日	豪雨 堤塘の決壊
明治22	旧5月27日	豪雨 五百川橋・大巻橋が流される
明治42	4月7日	豪雨 最上川や各河川氾濫
大正2	8月27日	豪雨 川通で小屋2棟流出
大正7	1月16日	雪崩 助の巻で雪崩発生 家屋の倒壊で一家5人死亡
大正10	8月6日	豪雨 最上川大洪水
大正12	8月17~18日	豪雨 最上川大洪水
昭和1	8月18~19日	豪雨 最上川大洪水
昭和7	9月5日	落雷 常盤 1棟焼失
昭和7	11月2日	崖崩れ 川通 死者2人 負傷者2人
昭和15	7月11日	豪雨 最上川大洪水
昭和15	8月10日	豪雨 7月11日の豪雨で朝日川増水 立木橋流失
昭和19	7月19日	豪雨 橋の流失など被害続出 助の巻床上浸水 死者1人
昭和25	4月12日	溢水 八ツ沼貯水池決壊 西船渡に溢水 災害救助隊発令
昭和29		伝染病 赤痢発生 31人罹患 内死者3人
昭和31	7月17日	大雨 強風を伴った大雨で町内河川氾濫 死者1人
昭和31	8月5日	大雨 太郎橋流出
昭和32	7月7日	大雨 床上浸水9棟 床下浸水230棟
昭和39	4月	伝染病 赤痢発生 144人罹患
昭和39	6月16日	地震 新潟地震(M7.7)
昭和42	8月28~29日	大雨 最上川大洪水 死者1人 建物の流失浸水など損傷家屋41棟
昭和50	6月9日	突風 西船渡地内で竜巻発生 8棟に被害 負傷者1人
昭和51	8月6日	豪雨 前日から降り続いた大雨で最上川、朝日川を中心に中・小河川が増水 床上浸水6棟のほか住宅や道路に被害 負傷者2人
昭和51	8月14日	地滑り 前田沢地内
昭和52	3月25日	山崩れ 八ツ沼地内 住宅1棟に被害
昭和53	6月12日	地震 宮城県沖地震
昭和54	3月31日	暴風雨 住宅全壊1棟 半壊27棟 部分壊296棟 県指定天然記念物豊龍の大杉に落雷
昭和55	8月26日	大雨 道路損壊外
昭和57	3月16日	土砂崩れ 立木地内町道
昭和57	9月12日	大雨 水本地内で土砂崩れ
昭和59	4月21日	地滑り 大沼地内
昭和62	8月15~21日	群発地震 朝日鉱泉付近を中心に、立木・太郎地区から白鷹町・大江町にかけて計9回の有感地震発生
平成2	2月23日	山腹崩壊 一ツ沢水源地向いが山腹崩壊 西部地区400世帯65時間断水
平成2	4月8日	竜巻 立木地内を約20分間吹き荒れる 1棟の茅葺き屋根破損
平成3	1月28日	山腹崩壊 町道大暮山線の山腹崩壊 土砂や落石が道路に堆積遮断当分の間全面通行止め
平成3	10月13日	大雨 台風による大雨 下芦沢地内の県道の山腹崩壊 全面通行止め
平成6	9月30日	大雨 台風による大雨 水本地内の老朽ため池決壊
平成6	12月9日	大雨 大船木地区の県道の法面崩壊 全面通行止め
平成7	7月9~12日	大雨 一ツ沢導水管破裂 農林道崩壊
平成7	8月10日	大雨 川通地内の県道の法面崩壊
平成9	6月28~29日	豪雨 床下浸水3棟 道路災害92か所 避難指示2世帯
平成10	8月6~7日	大雨 床下浸水12棟 道路災害98か所 避難指示3世帯
平成10	8月30日	大雨 中沢ため池決壊 道路災害11カ所
平成10	9月17日	大雨 立木地内の県道 全面通行止め
平成11	12月19日	強風 5件の建物の屋根破損
平成12	4月11日	山腹崩壊 川通地内の県道の山腹崩壊 全面通行止め
平成14	7月11日	大雨 下芦沢地内の県道の山腹崩壊 全面通行止め
平成16	7月10日	豪雨 床下浸水2棟
平成16	7月17日	豪雨 数カ所で道路崩落

※朝日町史編集資料第28号・朝日町地域防災計画参考

※農産物等に被害をもたらした「冷害」「降雹」「凍霜」並びに「火災」などは除いています。

また周囲が真っ暗な中、外に出でみたところ、近隣の家が倒壊している様子は見られなかつたのですが、停電のため周囲の状況がはつきりと確認できない状態が続きました。

このような状況の下、情報が入手できないということは、非常に不安になるものです。ましてや、こういった大規模な地震

という災害時に「周囲はどうなっているんだろ?」という思いは誰もが持つこと。ところが、情報が入ってこないことで不安感が募り、ややもするとそれが恐怖へとつながっていきます。

今だからこそ携帯電話が普及しているますが、震災当時はほとんど普及していない状態でしたので、公衆電話を探そうと外に出ました。やっと見つけたと思いつつ落ち着いてくると、今度はいきやテレホンカードが使えないのです。何が使えたかというと十円玉なんです。公衆電話を利用するのに、唯一使えたのが十円玉でした。

さて、被災者にとって、どういった内容の情報が必要なのかというと、まず最初に、やはり被災状況が気になるのです。時間が経過と共に気持ちが少しずつ落ち着いてくると、今度はライフルラインの復旧状況や道路の状況など、生活に密着した情報を探めるようになります。現地に電気が通ったのは震災から六日目のことでした。その間は全く停電の状態が続いたので、テレビがその情報をいくら

流しても被災者たちはそれを見ることができません。ラジオも携帯ラジオ以外は使えません。求められた情報が避難所などに届けられる主な手段は、壁新聞やミニ新聞など活字による情報の提供でした。

被災者たちは「レジ」による映像は見たくないというのが、本当の心境であったように思います。したがって、携帯ラジオと活

特集〇二大震災から得る教訓 危機感と地域コミュニティが命を守る

防災意識の高揚と自主防災組織の必要性



たるみ
神戸市垂水区在住
三宅成典さん

所生活を強いられ、その後仮設住宅、現在の復興住宅に移り住んでいるわけですが、いろいろな方々は、移り住むに従つて以前のような地域のコロニーから遠のいてしまつといふ、ひどい状況におかれただけです。それは自分の意思でそうなったわけではなく、震災という出来事がそうさせてしまったといふことです。殊に、復興住宅に住んでいる方々のおよそ三人に一人は友だちと話す機会がなくなってしまった、あるいは友だちがいたとしても話すこともないと

字による情報が、有効な手段として活用されていました。あれから十年が経過し、被災弱者と呼ばれる高齢者、障害者あるいは独居者の孤独死、そして同じくそいつた人たちがアーリーコール依存によって自ら命を

いう現況です。
これからは、高齢化が益々進んでくるわけで、ボランティア活動をなさっている方々のネットワークが構築されていけば、やがては有事の際に有効に発揮されるのではと思ひます。

活かさなければならぬ！災害で得た教訓

今こそ自主防災組織の見直しを！

さて、みなさんもご承知のとおり、地震だけが自然災害ではありません。過去の自然災害の記録を振り返ってみると、死者や負傷者が出て家屋が倒壊したりした灾害など、特に朝日町では大雨による被害が多く発生していることが分かります（6

震災で命を落としている方が多くが高齢者だったということとも踏まえて、六千四百三十三人の地震で得た教訓を、これからも後世に伝えていかなければならぬと思います。

私たちの責任なのです。前回の地域防災計画の見直しから五年が経過する今年、町では、新潟中越地震などの教訓を活かし、より実情に即した内容に見直しをする予定です。

自分の住む地域の自主防災組織のあり方について、町民一人ひとりが、そして地域が関心を持つて取り組んでいくことが、今問われています。

なお、新潟中越地震災害に伴う募金を役場及び西・北部公民館で行っていますが、二月末現在で八十万三千四百八十九円の温かい義援金を皆様からご寄託いただきました。ありがとうございました。

被災した その時 求しかつたモノ	★★★★★★
懐中電灯	★★★★★★
ラジオ	★★★★★★
寝室などからの脱出用の靴、スリッパ	★★★★★★
非常食	★★★★★★
飲料水	★★★★★★
薬	★★★★
下着	★★★★
ティッシュペーパーなどの紙類	★★★★
コンロ	★★
消火器	★★★★★★
ヘルメット	★★★★
衣料（夏は数が重要・冬は防寒の為）	★★★★★★
水のいらないシャンプー	★★★★★★
縄ばしご	★★
笛	★★
バール	★★★★★
キャンピングカー	★
あんか・簡易カイロ	★★★★★
雨がっぽ・ポンチョなど	★★★★★★
水を運ぶタンク	★★★★★★
ナイフ	★★★★★★
ライター	★★★★★★
煙草・チョコレートなどの嗜好品	★★★★★★
発電機	★★★★★★

月々の保険料が13,580円に… 平成17年4月から変わる国民年金制度

問 年金制度の改正を耳にし、町民が一番気になる点は、やはり保険料がいくらになるのか? などだと思いますが。

答 平成十七年度の保険料は、これまでより二八〇円引き上げられ、月々一三、五八〇円となります。

また、平成十八年度以降も、毎年度二八〇円ずつ引き上げられ、平成二十九年度以降は一六、九〇〇円で最終保険料として固定されます。

(現金払いよりも五三〇円お得)

が割引されます。平成十七年度分を口座振替で前納する場合は、三月二十日頃まで手続きが必要です。なお、既に口座振替で前納されている方については、そのまま自動継続されますので、手続きの必要はありません。口座振替日は、四月三十日(今年は土曜日に当たるため五月一日)となります。

問 一年分を前納した場合、保険料が割引されると聞きましたが。

答 現金払いと三、四二〇円

が割引されます。平成十七年度分を口座振替で前納する場合は、三

月二十日頃まで手続きが必要です。

なお、既に口座振替で前納されて

いる方については、そのまま自動

継続されますので、手続きの必

要はありません。口座振替日は、四

月三十日(今年は土曜日に当たるため五月一日)となります。

問 年金制度の改正を耳にし、町民が一番気になる点は、やはり保険料がいくらになるのか? などだと思いますが。

答 平成十七年度の保険料は、これまでより二八〇円引き上げられ、月々一三、五八〇円となります。

問 年金制度の改正を耳にし、町民が一番気になる点は、やはり保険料がいくらになるのか? などだと思いますが。

答 平成十七年度の保険料は、これ

までより二八〇円引き上げられ、

月々一三、五八〇円となります。

また、平成十八年度以降も、毎

年度二八〇円ずつ引き上げられ、

平成二十九年度以降は一六、九〇〇円で最終保険料として固定され

ます。

(現金払いよりも五三〇円お得)

が割引されます。平成十七年度分を口座振替で前納する場合は、三

月二十日頃まで手続きが必要です。

なお、既に口座振替で前納されて

いる方については、そのまま自動

継続されますので、手続きの必

要はありません。口座振替日は、四

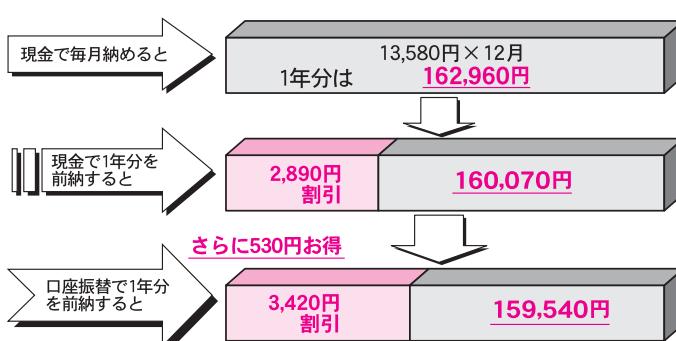
月三十日(今年は土曜日に当たるため五月一日)となります。

問 月々の口座振替に早割制度が登場したのですが。

答 月々の口座振替に早割制度が登場したとのことです。

翌月末の初回の口座振替で二ヵ月分の保険料が引き落としとなり、その後の毎月(一ヶ月ずつ)の保険料が四〇円ずつ割引されます。

四月分の保険料から割引を申し込む場合は、三月二十日頃まで手続きを



問 三十歳未満の方を対象にした、保険料納付の猶予制度が始まるとのことですが。

答 世帯主の所得に関わらず、本人及び配偶者の所得がそれぞれ基準に該当すれば、七月分から翌年の六月分まで(平成十七年度に限り、平成十七年四月から平成十八年六月までの十五ヶ月分)の保険料の納付が猶予されます。なお、平成十七年度の場合、対象となる当該所得の目安は、単身世帯で五七万円。二人(夫婦)世帯で九二万円。四人世帯で一六二万円となります。

問 その他にも改正点があるようです。それぞれの手続き等も合わせて問い合わせをする窓口、連絡先はどこになりますか。

答 山形社会保険事務局寒河江事務所(☎ 841-2551)あるいは、役場税務町民課戸籍年金係(☎ 671-2119)まで気軽に問い合わせください。

問 出せない条件で2つの火災を設定。団員たちは二手に分かれて、それぞれのケースにおいて考えられる自分の部の動きを検証しました。現場までの到着時間などを考慮すると、どの水利をめざしてポンプ車を走らせるのがベストなのか。このような訓練が、今後、有事の際に活かされることになります。



消防団が図上で訓練(開発センター)

火災を想定しての図面上における訓練が2月27日、開発センターホールで開催されました。町消防団の各部から分団要員以上の団員のほか幹部ら合わせて86人が参加。各分団あるいは各部毎に同訓練を実施している例はありますが、町全体で実施するのはこれが初めてのことです。

火災時の最悪の事態を想定し、現場本部から指示が



全国町村議会議長会自治功労者に長岡周眞議員

2月9日に東京で開催された全国町村議会議長会第56回定期総会の席上、朝日町議会議員の長岡周眞さん（太郎一）が自治功労者表彰を受賞しました。

昭和42年5月に町議会議員として初当選してから昭和58年4月までの16年間。さらに、平成3年5月に再選されてから現在ま

で14年間。合わせて30年間という長きにわたり、地方自治の振興に貢献されました。その間、町議会においては副議長並びに議長を歴任し、優れた政治信念をもって町の産業、経済、教育、文化、福祉の向上に多大な貢献をされました。これらの功績が名実共に認められたものです。

朝日町りんご生産者大会(団地センター)

多くのりんご生産者が参加し、朝日町りんご生産者大会が3月2日、農業団地センターで開催されました。「攻めの農業の展開」をテーマに、台湾市場での朝日町りんごの評価や県の有望新品種「山園A-1」の生育特性、また葉とらずりんごの取り組みについての講演が行われました。

特に、昨年初めて取り組んだ台湾へのりんご輸出に関しては、台湾市場を視察した結果が報告。「町りんごに関して高い評価が得られたようだ。今後の販売戦略をきちんと策定することにより、価格的にも有利

に販売できる可能性がある。今後も継続して輸出を行っていくことが重要」とし、会場に集まった生産者はりんご輸出に対し認識を深めました。

また、講演終了後の懇談会において、新品種や葉とらず等の取り組みなど、今年度以降の意欲的なりんご栽培について生産者が情報交換を行い、「元気のあるりんご生産地として今後ともやっていこう!」と意気込みを新たにしていました。



朝日町生涯学習推進大会(創遊館)

「家庭教育と青少年教育の充実強化を図ろう」をテーマに、第17回朝日町生涯学習推進大会が2月27日、創遊館ホールで開催されました。

最初に、日頃の学習活動の成果として、女性文化教室の初心者のための大正琴が演奏を発表。「荒城の月」や「白雲の城」など、初めての方ばかりとは思えない息のあった演奏が繰り広げられました。

宮宿小学校の活動事例「あるこうふしげ発見隊」では、「能中一本松のヒメサユリを見に行こう」から旧木本小学校での「夢みる音楽会」への参加など、これまで実施してきた8回の事業内容が紹介されました。「この事業を通して、これまで気付かなかつた多くの新たな発見をすることができ、とても感動した。朝日町が大好きな子どもに育ってくれることを願い、これからも

続けていきたい」と語ったのは成原早弓利さん（前田沢）。

さらに、小学校高学年を対象とした寺子屋事業が紹介され、青少年育成推進員として活躍している浅岡久美子さん（西町）が、座禅や写仏、一汁一菜の食事など、子どもたちの様子を発表。「日頃体験できない貴重な体験を通し、子どもたちは我慢することの大切さや、やり遂げた後の達成感を感じているようです」と語ってくれました。

最後は、劇団はなまるが、小学生のいじめや家族の絆をテーマとした「浮島物語ーその後ー」を上演。主人公の小学生が、学校でのいじめやいやなことから逃げ出さず立ち向かってゆく姿に、集まった350人の観衆は感動している様子でした。



交流住居フェア(東京・丸の内)

「田舎ステイを楽しもう！」をテーマに、東京丸の内の東京会館東商ホールで2月20日、交流住居フェアが開催されました。国の総務省過疎対策室が主催したもの。都市に住む人たちが、都会と田舎の両方に滞在する場所を持ち、それぞれの場所を仕事や余暇・趣味などのために使い分け、地元の人たちとの交流を楽しみながら生活するという新しい生活スタイル。それが

「交流住居」です。

会場内に専用のブースが設けられ「我が町にぜひ！」とPRした自治体は全国から26団体。日本で初めてエコミュージアムのまちをめざしたことを中心に、「あなたがずっと探していた『本物のふるさと』は、ここ朝日町にありますよ」と、力強くPRしてきました。



全日本スノーボード選手権 東北大会

人並み外れた空中での技 高さがお分かりいただけるかと思います

華麗な技とダイナミックな演技に会場は酔いしました。
この冬、自然観スノーパークを会場に、二つの大きな大会が開催されました。

二月八日は、JSBA（日本スノーボード協会）がG2（グレード2）大会として公認する2005朝日自然観カップハーフパイプ（HP）大会。今回は第10回山形県選手権と併せて開催したので、男女合わせて五十六人が出場。遠くは兵庫や島根からの参加者もあり、ファンタジーゲレンデに設けられた全長百十メートル、幅十八メートル、高さ（深さ）四メートル、斜度十八度のパイプを果敢に攻めていました。

二月十一日から三日間の日程で開催されたのは、第23回全日本スノーボード選手権大会の出場権を競う東北大会。HPとスロープスタイル（SS）の二種目が行われました。HPには男女合わせて百二十一人が、同じくSSには七十四人が出場。SSは全長四百メートル、最大斜度十八度（平均斜度十五度）の斜面に、ジャンプ台や鉄パイプの手摺りなど七つのセッション（障害物）が設けられているコースをダイナミックな滑りでクリアしていくスピード感溢れる競技。東北各地を代表する選りすぐりのボーダーたちが、次々に迫つてくるセッションに果敢に挑んでいました。





空中での豪快な演技 魅せてくれました！



自然観杯ハーフパイプ大会



選手に声援をおくるギャラリー



同士の試技を見守る仲間たち



まちの話題



①町内各地で冬季レクリエーション大会(古檜区・高田区)

寒さの中にも温かみのある行事

毎年、干支の雪像と身丈ほどの雪灯籠を作り、区民たちを迎える古檜区(清野和夫区長)の冬季レクリエーション大会が2月11日、賑やかに開催されました。



夏場は田んぼである所に降り積もった雪を、ただ踏んだだけの特設コートで行われたビーチバレー。ネットはなんとアルミ製のはしごを利用しています。新雪の中で雪だらけになってするプレーがなんともおかしく、笑いが絶えません。その他に、卓球や賞品落としの投擲ゲームなどが行われました。

ゲーム後は、区民全員が参加しての懇親会。集荷場の中で薪を燃やし、その煙さで涙をポロポロ流しながら食べる鮪のかぶと焼きや、体の温まるおでんなどが振る舞われ、懇親を深めました。

今年の干支は酉。酉を象った雪像を作ったところ、ちょうどその日、同区内にひとりの女の子が誕生しました。ヒナが孵った感じ?。それを祝うかのように、宴会は夜遅くまで続きました。

新種目縄ない競争に熱くなる

高田区(佐竹庄吉区長)でも2月13日、区民25人が参加し冬季レクリエーション大会が開催されました。以前は卓球大会を開催していたものの、ここ数年で参加者の年齢が高くなってきたということで、輪投げやカルタ取りなどの軽スポーツに切り替えて実施。今年が3年目となるそうです。



しかし、今年は目玉となる新種目がありました。それは「縄ない競争」です。10分間の縄ないで、長さとその技術で争うこの競技。優勝者は10メートル完成させた長岡正さん。参加者全員の平均の長さは5メートル程度だったそうです。「男性よりも女性の方が上手になっていく感じがしました」と語る区長の佐竹さん。

競技後は、何か集まる行事があれば必ず実施するというそば打ちが披露。3年前に完成した新しい公民館(ふれあい交流センター)には、終始笑顔の区民たちが集っていました。

「和やかに 縄に縋かけ 雪まつり」区長さん作。

②舟渡公民館文化伝承教室・昔話きいてみんべのつどい・交遊塾(秋葉山交遊館)



伝統文化「昔話」を語り継ぐ

舟渡公民館(遠藤邦昭館長)が区民を対象に毎年行っている文化伝承教室。14回目を迎える今回は、語り継いでいかないと無くなってしまう伝統文化「昔話」を

聞く内容で2月13日、秋葉山交遊館を会場に開催されました。語りの会つむぎ(鈴木直子代表)が毎年主催している「昔話きいてみんべのつどい」と北部公民館が主催する「交遊塾」との共催で行われた今回の行事には、区民のほか町内外から約100人が参加。きいてみんべのつどいも9回目を迎え、今回初めて会場を外に移しての開催となりました。

昔話をイメージさせるそれぞれの衣装を身にまとった語りべたちがいり越しに語り始めると、会場は昔話一色の世界に…。「地蔵浄土」など7つの語りと創作紙芝居「道円さん」、ゲスト出演した民謡秀岳会安藤直良さんの歌声に、参加した人たちはしばし時が流れるのを忘れながら聞き入っていました。

③第7回朝日自然観ジュニアスキー大会(朝日自然観スノーパーク)



旗門を果敢に攻める選手たち

今年で7回目を迎える朝日自然観ジュニアスキー大会が2月19日、朝日自然観スノーパークのユーユーゲレンデを会場にして開催されました。

町内全ての小学校から76人がエントリー。種目は、旗門をクリアしていくスラローム競技。4年生から6年生までそれぞれ男女別、合わせて6部門で競技が行われました。

「この大会に出場するために！」と、各自がスキー教室などを通して練習を重ねてきた結果がこの日試さ

れるとあって、旗門を果敢に攻める持ち前のテクニックとスピード感溢れる子どもたちの滑りに、ギャラリーからは盛んな拍手と声援が送られていました。

結果については、次のとおりです。

▽4年男子…①村山晃規（宮宿）②阿部拓実（西五百川）③白田篤史（大谷）④細谷浩司（宮宿）⑤齊藤一馬（西五百川）⑥阿部研太（西五百川）▽4年女子…①阿部美咲（西五百川）②鈴木遙子（西五百川）③阿部真理奈（西五百川）④阿部結希（西五百川）⑤渡邊幸栄（西五百川）⑥阿部春姫（西五百川）

▽5年男子…①清野嵩悠（宮宿）②吉田光汰（宮宿）③諏訪朔（宮宿）④海野雄大（西五百川）⑤富樫龍優（宮宿）⑥長岡真也（西五百川）▽5年女子…①志藤茜（大谷）②松尾泰葉（宮宿）③阿部茜（西五百川）④佐竹由衣（西五百川）⑤浅岡優希（宮宿）⑥村山瑞貴（大谷）

▽6年男子…①菅井拓人（宮宿）②阿部悠佑（宮宿）③安藤一樹（宮宿）④阿部友樹（西五百川）⑤長岡友樹（西五百川）⑥白田翔汰（大谷）▽6年女子…①近藤香澄（宮宿）②佐藤澪（宮宿）③齋藤仁美（宮宿）④五十嵐夏美（大谷）⑤鈴木千穂（大谷）⑥遠藤知佳（大谷）

⑤冬の外遊びバイキング（西部公民館）



私の凧 こんなに高く上がったよ

100メートルの凧糸を出し切って、赤いマジックで描いた“絵のタコ”が気持ちよく大空を泳いでいます。見ていてとても気持ちがいい光景。2月13日に西部公民館で開催された『いもがわ少年教室“冬の外遊びバイキング”』の1コマです。夏の外遊び事業が好評だったのを受け、満を持しての冬の企画。寒さにも負けない元気な子どもたち13人が参加しました。

細木を骨にして作ったビニールの凧。傷ついたときはセロテープで治しながら何回も揚げていました。おかあさんが作ってくれたカレーライスもお代わりして食べ、昼からは雪遊び、うずまきジャンケン、ビニールそり乗りとバイキングメニューも豊富。「もっと遊んでいたい！」そんな1日でした。

④保育園でお茶会（さゆり保育園）



感謝の心の大切さを学ぶ

2月15日と16日の両日、さゆり保育園（海野優恵子園長）のひまわり組とゆり組の園児43人が茶道を体験。感謝の心の大切さを学びました。自宅でお茶の指導している「交光会」会長の堀光子さん（四ノ沢）が、ボランティアの一環として作法を教授したものです。

ふんわりとお香の漂う部屋で、茶せんでお茶をたてる園児たちの表情は真剣そのもの。「この日のために家で練習をしてきたよ」と語ったのは大竹克典君（大隅）。足のしびれにも耐えみんなが最後までやり抜き、いろんな人の気持ちが込もったお菓子やお茶のいただき方をとおして、「ありがとう」の感謝の気持ちの大切さを認識していました。

⑥ワインのタベ(農業団地センター)



エレクトーンとフルートの調べにのせて

朝日町商工会女性部（阿部玲子部長）が主催する第9回ワインのタベが2月19日、農業団地センターで開催されました。限定の前売券が販売当日から3日で完売という人気あるイベント。町内外から朝日町ワイン愛好者ら200人が詰めかけ、昨年の国産ワインコンクールで銅賞に輝いた「セレクト・ルージュ2002」のほか15種類の町産ワインが惜しげなく振る舞われました。

参加者のお目当ては他にもあります。ワインにピッタリのメニューがバイキング形式で数多く並べられ、中でも同女性部員たちが当日の朝から準備したダチョウ料理（新メニューの焼き鳥のほか、たたき、マリネなど全5品）に人気が集中。大皿に盛られたメニュー



も、数分足らずでなくなってしまうという盛況ぶりでした。

エレクトーンとフルートの優しい音色が会場を包み込む中、町特産りんごの赤ワイン煮やジェネバインゼリーなど全19品のメニューが、参加者の食を十分に満たしていました。



⑧風神杯争奪V B大会(大谷小体育館)



高校生から実年層までが集う

今年で13回目を迎える風神杯争奪バレーボール大会が3月6日、大谷の7集落から全12チームが参加し大谷小学校体育館で開催されました。大谷地区民の融和と親睦を図る目的で、大谷連合区（白田進連合区長）が主催。毎年この時期に開催しているものです。

9人制で、前衛に必ず女子あるいは45歳以上の男子が入っていなければならないという特別ルールを採用しており、高校生から実年層までが一堂に会しレクリエーション気分を楽しみました。

⑦春の雪山トレッキング(朝日自然観)



好天にも恵まれ最高の気分

春の雪山トレッキングが3月6日、町内外から19人が参加し開催されました。新雪の中、手にはストック、足にはスノーシュウ（かんじき）を履き、ブナ林を楽しみながら目的地のサイズチ峰まで行って帰ってくるというもの。距離にして往復約8キロメートル。時間にして6時間におよぶ行程となります。

この日は例年になく好天にも恵まれ、目的地は眩しくらいの快晴。爽快感に浸る参加者たちは、疲れを忘れて記念撮影に応じてくれました。

まちの話題②

⑨朝日町体育協会表彰(創遊館)



1団体15個人が栄えある受賞

この1年間、スポーツの分野で活躍したみなさんの功績を讃える「朝日町体育協会表彰式」が2月27日、町生涯学習推進大会の席上に行われました。受賞者を代表し白田大地さん（大谷四）は、「受賞できて本当にうれしい。春からは関東の大学に進学することになり

ますが、朝日町民としての誇りと強い意志を持って、今まで以上の活躍ができるように頑張ります」と、これからへの抱負を語りました。

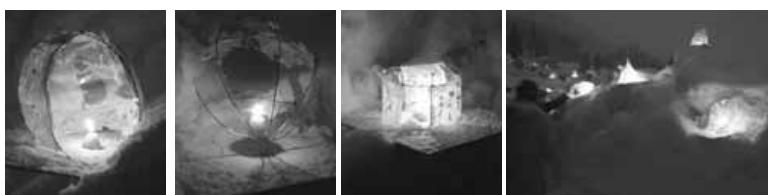
受賞者は次のみなさんです。（順不同、敬称略）

【奨励賞】鈴木季一（前田沢／ゲートボール）清野力二（四ノ沢／ソフトボール）今井仁志（大町／野球）以上3個人

【殊勲賞】菅井源三郎（小原／バイアスロン）志藤雄人（川通／陸上）遠藤幹子（栗木沢／サッカー）白田淳（西町／陸上）白田大地（大谷四／剣道）志藤広史（川通／剣道）白田隆典（大谷三／剣道）長岡清弥香（松原／剣道）小林透佳（大沼／剣道）村山仁（大谷七／剣道）堀祐樹（大暮山／柔道）朝日中剣道部〔榎元輝（大谷四）白田寿宣（大谷六）岡崎覧彩樹（下芦沢）長岡利平（大谷五）村山仁（大谷七）清野駿（四ノ沢）熊谷拓也（新宿）〕以上11個人1団体

【優秀賞】近藤香澄（栄町／陸上）以上1個人

⑩灯計～立木の夜を彩る～(旧立木小学校)



校舎内に蜜ロウの明かりの列

「灯計(とけい)～立木の夜を彩る～」と題した神秘的なイベントが2月26日、旧立木小学校で開催されました。朝日町あたらしい学校設立支援委員会が主催したもので、地区民ら50人が参加しました。

2部構成からなるこのイベント。第1部は、夕暮れ時に優しく灯る蜜ロウソクの明かりの変化で時の経過を感じるというもの。針金を使い思い思いに組み立てた骨組みに、色セロハンや和紙などを貼り付けた覆いが蜜ロウソクの炎にそっと被せられると、暮れゆく立木の地に幻想的に浮かび上がるそれぞれの灯計。

「時の経過をこんな形で感じて欲しい」と東北芸術工科大学の学生らが独自に考案し指導に当りました。

第2部は、校舎内全体を利用して時の芸術に参加者らを誘うというもの。それぞれ個々に持っている俗の世界の「時」を一端預け、時の精から導かれて暗闇の校舎を進んでいく参加者たち。周囲にはカッタンコットンという時を刻むもの静かな音。所々に蜜ロウソクの明かりを灯していく。参加者たちは「これまで時間というものを感じる機会がなかったように思う」と、後ろに連なっていく明かりを背中に感じながら、ゆっくりと刻み続ける時の空間を体いっぱいに感じ取っていました。

寒さの中でも、心温まるイベントでした。

みんなのひろば



何事も楽しみながら… が私のモットー

朝日町生涯学習推進大会において上演された「浮島物語ーその後ー」で、翔子役を演じた佐竹千鶴さん。

この物語は、都会に住む小学5年生の女の子が、父の実家のある田舎で夏休みを過ごす中で、力強く成長していく姿を描いたもの。歌あり、踊りあり、笑いあり、そして感動あり。客席からは大きな拍手が送られました。「小学5年生の女の子になりきるには大変苦労しましたが、自分なりに満足のいく演技ができたと思います。客席のみなさんが、ねらいどおりに反応してくれた時は最高でした。ちょっと癖になっちゃう感じかな」と照れくさそうに語る。

一つの作品が上演されるまでには、多くの人たちの力が必要。脚本作りに始まり、舞台装置、音響、照明、演出、そして役者等々、一つひとつの小さな“家族”が組み合わされて次第に“大家族”になっていく…。その過程にワクワク、ドキドキの感動を覚えたとも話す。「この作品に参加できたことで、多くの出会いが

ありました。様々な職業、立場の人たちと、世代を超えた付き合いができたし、何より“大家族”でワイワイいただく酒の肴はまた格別ですね」とこれまでの舞台裏を振り返る。

“何事も楽しみながら…”が千鶴さんのモットー。「ここ2~3年で、この町の様々なことを知ることができます。しかし、まだまだ知らないことも多いと思います。今後はもっと町のことを知り、楽しいことを発掘していきたいです」と終始笑顔で話してくれました。



この町が好きだから…
町のいろんなイベントで活躍中！
佐竹千鶴さん
(24歳／八ツ沼)

今輝いて

各種大会の成績

■第9回町民インディア大会
(三月六日／町民体育館)
①ラッキーましょん (五十嵐修彦監督)
②野女と野獣 (菅井正彦監督)
③あぶねえ～ぞ若妻 (齊藤利彦監督)

■第17回豊龍杯争奪剣道大会
(二月二十七日／北部体育馆)
①渡辺淳 (送橋) ②遠藤寛 (寒河江市)
藤田康徳 (大谷五)

■第12回町剣道選手権大会
(二月二十七日／北部体育馆)
①白田大地 (大谷四) ②小林陽介 (大沼) ③鈴木拓郎 (本町)
藤田康徳 (大谷五)

●町民囲碁大会
(二月十一日／開発センター
一階和室)
Aクラス (2段以上) : ①小関崇夫 (栄町) ②小野隆弘 (大谷六) ③鈴木千良 (西船渡)
Bクラス (初段以下) : ①阿部康夫 (大谷五) ②鈴木欣一 (西町) ③橋宗昭 (常盤)

(○内数字は順位)

となりの ひるひこさん

作・ホリイ (170)



今月の新刊

おすすめ本！

- ①時刻表の達人…
- ②銀座開化事件帖
- ③錢売り賽蔵



常盤
阿部
直春
直子
樹
さん

2年前に知人の家で飲み会を通じて知り合った二人。早速携帯番号を交換し友達としての交際がスタート。

お互いの第一印象は？と聞いたところ春樹さんは「身長が低く恥ずかしがりやだなあ」。一方の直子さんは「老けていてとても同級生には見えない」と当時を振り返ってくれました。

デートを重ねるうちにお互いを意識するようになり、昨年の10月にめでたくゴールイン。春樹さんは朝起きが苦手で、毎日のように直子さんが起こしているそうで、初めは優しく起こしていた直子さんも今は冷たく起こしているとか。

3月には新しい家族が増える予定で、「子どもの前ではけんかをせずにラブラブでいようね」と笑顔で語るお二人。いつまでもお幸せに！

銀座開化事件帖 松井今朝子著
文明開化の象徴の地銀座で、近代日本の青春期ならではの珍妙な事件が次々とおこる。元武士の変わり種、明治のニューヒーロー久保田宗八郎、姫爽と登場

錢売り賽蔵 山本一力著
金貨や銀貨を町民が普段使う文錢を両替する「錢売り」を生業とする賽蔵。深川の裏店で賽蔵が錢の穴から見る庶民の浮き沈みは…。江戸人情物語。

時刻表の達人 使える・遊べる・勉強できる！ 福岡健一著
旅に役立つ情報がぎっしり詰まつた時刻表を使いこなして、楽しくお得に旅をしよう！JR時刻表の図や表をたくさん使い、時刻表の見方・調べ方を解説。児童書だが大人も目からウロコ！

- ▼小さな命からの伝言（アグネス・チャン）
- ▼氣功入門ーからだの自然が目を覚ますー（天野泰司）
- ▼重曹生活のススメ（岩尾明子）
- ▼サラ川傑作選 しかくしめん（山藤章二）
- ▼遙かなるクリスマス（さだまさし）
- ▼梅咲きぬ（山本一力）
- ▼モビィ・ドール（熊谷達也）
- ▼大仏破壊バーミアン遺跡はなぜ破壊されたのかー（高木徹）
- ▼大地からの警告一大震災は何を語りかけたのかー（貝原俊民）

みなさんからのおたよりでつくるコーナーです。
町に対する意見や要望、提案みなさん周りでの出来事や話題、日々感じていること、イラスト、質問などお待ちしています。

- あて先／〒990-1442 朝日町大字宮宿1115番地
朝日町役場企画課 協働推進係
(電話：67-2112 フックス：67-2117)
- Eメール／kikaku@town.asahi.yamagata.jp
■ホームページ／http://www.town.asahi.yamagata.jp

町民の声

個人通知して もらえないですか？

少子化が進み、子どもの数も少ないのだから、健診や予防接種の時には、改めて個人に通知してほしいです。年度当初に配布される日程表やお知らせ板だけでは、見落としてしまう場合があります。

少 子化が進み、子どもの数も少ないのだから、健診や予防接種の時には、改めて個人に通知してほしいです。年度当初に配布される日程表やお知らせ板だけでは、見落としてしまう場合があります。

匿名

現在は個人への通知は差し上げておりますが、今後保護者の方々のご意見をお聞きし検討していきたいと思います。

予防接種については、個々の身体の状況で接種時期が異なってきますので、一斉通知は難しいのが現状です。ご了承いただきたいため、接種日に間に合えば受け付可能ですので、健康福祉課へお問い合わせいただきたいと思います。

【健康福祉課】

あさひまちの宝箱 vol. 14

「海野秋芳」～平和を希求した夭逝の詩人～



海野秋芳が私の叔祖父だと知ったのは、中学生の時でした。祖父の話によると、大正6年(1917)7月25日、海野家の次男として生まれた彼は、16歳で上京。薬局に勤務し薬剤師をめざす傍ら、文筆活動をしていました。

その後、戦争の風潮が高まり、旧東五百川村上郷の実家にもどり、ハツ沼城の歴史的小説『新五百川軍記』の出筆活動をしました。

軍隊を除隊した後、再び上京し、製造工場に勤務しながら引き続き文筆活動。その頃から病気を患っていた彼は、昭和16年(1941)高村光太郎より序文を寄せていただき、『北の村落』という詩集を残し、昭和18年(1943)病気の悪化により27歳という若さでこの世を去ります。

『北の村落』は、当時の農村の様子や世俗を描いています。物があふれて平和な時代に生きる私にでも、当時の生活、戦争、家族への思いが伝わってきます。

彼は、現在の私の歳でこの世を去りました。私は平和な時代に生き、今まで何かを成しとげてこれたのだろうかと思います。

戦争の最中に生き、そして、病気をわずらいながらも、高村光太郎より序文を寄せていただけるような著作の偉業を成し遂げたという叔祖父がいたことは、私の誇りです。

(海野 淳 2003.2)

※あさひまち宝さがし実行委員会では、ひきつづき「まちの宝」を募集しています。広報紙の折り込みはがきを利用しご応募ください。

あさひまち宝さがし実行委員会

子どもに本物の体験 またお願いします

お 茶会の行事にたいへん感動しました。なるべく本物を子どもたちから触れさせる方が良いとは伺っておりました。私が体験したことがないことを経験させていただいたこと。

本当にありがとうございます。昨日は歩き方を練習し、今日は足のしびれない座り方を教えてもらつたように、して見せてくれました。お茶は少し苦く、

保 育園の行事に、快くご協力をいただいていることを感謝申し上げます。このたびのお茶会で、作法はもちろんですが、我慢する心なども体験を通して得ることができます。今後もいろいろな面で、子どもたちのパワーが発揮できるよ

う、保育園として支援をしていきたいと考えています。

【さゆり保育園】





平成17年(2005年)
■2月1日～2月28日届出



すこやかに

区名	出生児氏名	性別	保護者名
白倉	阿部 将太	男	光春・けえ子
真中	柴田 陽翔	男	敏行・眞美
夏草	阿部 真希斗	男	剛宙・美和
常盤	梅津 彩果	女	宏一・透子
緑町	千葉 清春	男	大志・洋子
松程	白田 こころ	女	希・優子
古檍	清野 由奈	女	鐘八・千春



おしあわせに

成原 哲也
(新宿)

高橋 恵美
(大江町)



やすらかに

区名	死亡者氏名	世帯主名
新宿	熊谷久四郎	昌彦
太郎一	長岡 一榮	満
西町	阿部 惣吉	惣一郎
太郎一	小川 久子	新
大町	安藤 和夫	和治
太郎一	佐竹 唯雄	敏幸
大隅	近正春	正雄
前田沢	成原 清助	りゑ
小原	清野 豊	寿浩
水本	岡崎 たま	小兵衛
大谷五	相樂 健	武則
能中	海野 勝美	敬一
松程	阿部 政之助	昌雄
大沼	小林 つる子	正三郎
大暮山	鈴木 義則	長十郎

人口と世帯数

●平成17年2月28日現在
人口 8,916人(減9人)
男 4,420人(減7人)
女 4,496人(減2人)
世帯数 2,565戸(減3戸)
()内 前月比



ジェニファー先生の 英語にチャレンジ

Goodbye everyone!

The winter season is now upon us. There is about the same amount of snow in Asahi town as in my hometown, Juneau, Alaska. I have enjoyed experiencing winter in Yamagata. Asahi is beautiful in the snow, especially when the sky is crystal-clear and sunny. I have even enjoyed skiing at Asahi Shizenkan.

Unfortunately, I will be leaving Asahi Town at the end of February and returning to my family in the United States. I am very sorry to be leaving Asahi so early, but must go back home to my family.

I have enjoyed meeting so many kind and interesting people in Asahi. It has been a wonderful opportunity to experience Japanese life and culture. Also, I have been lucky to make friends with many people Asahi Town. I will miss everyone very much.

I have many wonderful memories of my time here in Japan and have learned very much. I look forward to sharing what I have learned with my friends, family, and future students in Alaska. I hope to visit Asahi Town again in the future and perhaps even bring my family to Japan!

Thank you everyone for your hospitality and kindness. I have had a wonderful stay in Asahi Town and will never forget you. Please stay in touch and write to me in Alaska. Goodbye everyone!



Take care,
Jenny

P. O. Box 211049
Auke Bay, AK 99821
U. S. A

私たちは今、冬を迎えてます。私の故郷であるアラスカのジュノーは、朝日町と同じくらい雪があります。私は、山形の冬を楽しんでいます。朝日町は雪がきれいで、特にスキーの時は、明るく日が照った雪の結晶がきれいです。私は、朝日自然観でスキーを楽しんでいます。

しかし残念ながら、私は2月いっぱいまで朝日町を離れ、アメリカの家族の元へ戻ることになりました。こんなに早くこの町を離れなければならないことを、たいへん申し訳なく思っています。私は、家族のところへ帰らなければなりません。

私は、朝日町で、とても親切で楽しいみなさんに会うことができ、うれしく思います。日本の生活や文化は素敵な経験となりました。この町で多くの友だちができ幸せです。この町を離れれば、私はきっととても寂しくなるでしょう。

私は、ここで多くのことを学び、本当にたくさんのすばらしい思いができます。ここ朝日町で学んだことを、アラスカの友だちや家族、未来の生徒たちに伝え、みんなで共有できるようになることを楽しみにしています。できれば家族も一緒に、再度朝日町を訪ねてみようと思います。

数々のおもてなしやご親切。ありがとうございました。とても素敵な朝日町での生活を決して忘れません。手紙や連絡をお待ちしています。そして、アラスカへもぜひお越しください。それではみなさん。さようなら。

お元気で。ジェニーより

西村山地区

防火ポスターコンクール

最優秀賞

宮宿小6年

富樺幸姫さん



この絵の工夫したところは、細々と書かず伝えたいことを大きく書いたことです。防火タイトルを、親しい言葉で呼びかけるように書いたのも特徴の一つです。

私の母は、揚げ物をする時、その場を離れると必ず火を消します。その時の天ぷらは、フニャフニヤになってしまいますが…。

私も、火の使い方には気を付けています。みなさんにも、このポスターを通して気を付けてもらいたいです。

直後に、再度その時報を思い出したりして、その時報はもう既に過去のことである「今現在は即、過去と化してしまう」といって、当たり前のことを、再認識している自分に気が付きました。陽光もようやく春めいてきて、時節はもう卒業シーズン。光陰矢のごとし。過去と未来の狭間にあり、決して取り戻すことのできない一コマの時間帯その「今」を、精一杯駆け抜け下さいといきたいと思うこの頃です。

春夏秋冬

編集後記

今月号の広報紙を作つていて、こんなにも「時間」というものを感じたことはありません。まず、二月が二十八日までしかないこと。当たり前のことをは言え、原稿の締切が迫つていい私にとつて、このたつた二三日の時間はたいへん貴重な時間でした。この間にやれることはたくさんあります。一気に三日間で突入してしまつたような、そんな気がします。